

動物とのふれあい方教室12月25日

命の大切さを知り、動物との正しいふれあい方を学ぶ「動物とのふれあい方教室」が1年生を対象に行われました。



「命の音を聞いてみよう」代表の子どもたちの心臓の鼓動をスピーカーを通して聞いてみました。

聴診器を使って自分や友だちの鼓動を聞いてみます。みんな真剣です。



犬のヨシコの心臓の音も聞いてみましょう。



象の心臓は30kgもあり、とてもゆっくり動きます。人間にも動物にも心臓があり、命があります。



飼い主が連れてくる犬に触りたいときは、まず自分のこぶしを犬の鼻のところにもっていつてかがせ、怒らないのを確認して、あこの下をさすってあげます。頭をなでてはだめです。



飼い主のいない犬と出会ったときは、目を合わせず知らんふりをします。走つて逃げるとおいかけてきます。落ち着いてその場を離れます。それでもおいかけてきたら、木になつて動かないようにします。このときも目を合わせないようにします。犬は木にかみつくことはありません。



「最後に、センターのお姉さんたちが作った紙芝居を見ました。



動物にも命があります。家で動物を飼うときは、最後まで責任をもって飼いましょう。途中で捨てたりするのは、命を粗末にしていることです。

この日センターの人と一緒にやってきたミックスのヨシコは、今年5月に保護された犬です。もうすぐ3歳になる若い犬ですが、とても大人しく、吠えたり暴れたりしませんでした。お話のあと、犬の苦手な子どもたちとヨシコとの触れ合いの時間がありました。